

桂台地域ケアプラザ「支えあい連絡会」広報誌

ひろば

vol. 15

2007・春



団塊の世代に聞く

～ 60才からのボランティアデビュー ～

14号に引き続き、団塊世代の方々の地域参加について取り上げました。

長い間仕事に従事されてきた方々が定年後、地域活動に参加されたり、ボランティア活動をしてみたいと思っても、なかなかきっかけが見つけないのではないのでしょうか？

しかし、地域にはさまざまなボランティアグループや地域で活動する数多くの団体があります。そして、皆さんの力を必要としています。皆さんの地域デビューのきっかけに本誌が役立つよう願っています。

(写真：川辺の清掃を行う荒井沢市民の森愛護会の皆さん)



★支えあい連絡会ホームページ <http://www.katuradai.com/>



栄区公田町の南端、鎌倉との市境に広がる荒井沢の雑木林には、野鳥や小動物、トンボやホタルなどが数多く生息し、平成10年5月の開園以来、市民には憩いの場、近隣の小学校児童には谷戸での稲作体験学習（写真）の場を提供してきました。

現在、横浜市から環境整備を委託されているボランティアグループ「荒井沢市民の森愛護会」の会員、草本さんと佐藤さんに活動の様子を伺いました。

愛護会の会員は現在62名（男性平均年齢67才）で、月3回の定例会では下草刈り、雑木の伐採、散策路や階段・ベン

里山を守り育てる市民ボランティア

<荒井沢市民の森愛護会>

チの新設・補修、水辺の清掃、畑、炭焼き、園内パトロールなどの合同作業で汗を流すそうです。

奥様と一緒に活動を始めた草本さん。炭焼きを見学に行つてそのまま仲間入りをした佐藤さん。メンバーは皆、定年後にゼロから山仕事を始めた人ばかりとか。「自分の都合に合わせて作業ができるので、楽しい疲れしか残らない。常に遊び心を絶やさず、が長続きの秘訣」と、お二人とも、その昔故郷の野山を走り回っていた腕白坊主そのままのような笑顔で、楽しそうに語ってくれました。

愛護会ではボランティア活動の仲間を随時募集しています。あなたも身近な里山で、土や木々と語り合う喜びを味わってみませんか。（連絡先：892-0053本間さんまで）

移送で地域に貢献 <NPO法人 湘南お出かけサポートの会>



福祉政策の上で紆余曲折している「移送サービス」を定年後の男性グループが手がけていると聞いて『湘南お出かけサポートの会』を訪ねました。この会は、平成16年4月に設立され、地域の障害者や高齢者で送迎を希望する人たちを支援するNPO法人です。活動は平日の日中が中心で、有償ボランティアとしての移送を行っています。

メンバーは、桂台テニスクラブの人たちが主体なので、スポーツ仲間に通な気心の知れた者の集団であり、普通の団体とは違った結びつきがあるそうです。移送した障害者や保護者からお礼を言われると大きな喜びを感じ、得た収入で飲む酒に特別な充実感を感じるとか。同窓会で自分の活動を言うことに誇りを感じたり、「地域に貢献しているという満足感も抱く。自分の子が無事に育った地域社会を愛し、そこに

恩返しをしているのだ」と内心で密かに感じながら活動していることもあるそうです。「各人の活動は週1日で、無理をせず長続きすることが重要。団塊の世代には是非入会して欲しいが、日頃テニス仲間のめぼしい人には現役時代から声をかけ続け、広い年代層からリクルートしている。特別に団塊の世代に注目している訳ではない」そうです。

話を聞いて次第に、移送という手段で純粋に地域社会の福祉を担おうと熱く語り合う、容貌とは違った青年たちが目の前にいるように感じられてきました。

会の詳細はホームページを読んで下さい。

<http://www.geocities/stsuru200404.htm/>

団塊世代に聞きました!

団塊世代と言われている22名からご協力をいただき、これから定年を迎えるにあたって、定年後の過ごし方や、福祉活動について、アンケートをしました。

Q.1 定年後は何をしたいですか?

- | | | |
|---------------------|----|----------|
| 1 再就職を考える | 6人 | ●●●●●● |
| 2 家でのおんびりしたい | 4人 | ●●●● |
| 3 趣味活動を充実させたい | 8人 | ●●●●●●●● |
| 4 ボランティア活動をしたい | 1人 | ● |
| 5 その他 | 2人 | ●● |
| （・自営 ・しばらく今の仕事を続ける） | | |
| 6 無回答 | 1人 | ● |

Q.2 仕事をしながら、現在行っている福祉活動や地域活動はありますか?

- | | | |
|-------|-----|--------------------|
| 1 はい | 4人 | ●●●● |
| 2 いいえ | 18人 | ●●●●●●●●●●●●●●●●●● |

Q.3 「はい」と答えた方にお聞きします。どんな活動ですか?

- ・青少年指導員、自治会活動
- ・たんぼぼ、どんぐり（ミニデイサービス）他
- ・自治会でのボランティア活動、とりわけ子どもへ「生きた」学習の提供

Q.4 地域で活動している福祉活動グループや、地域活動のグループをご存知ですか?

- | | | |
|-------|-----|--------------|
| 1 はい | 12人 | ●●●●●●●●●●●● |
| 2 いいえ | 10人 | ●●●●●●●●●● |

平均年齢は68歳、歌声は30～40歳

<矢沢男声合唱団>

旧矢沢小学校のコミュニティハウス開館10周年を記念し、「高齢化社会の中にあっても、活気あふれ“地域社会に文化の華”を咲かせるコアとなるような活動団体を作りたい」との趣旨で2000年4月に設立されました。

団員数は39人。練習は毎月木曜日（第5は除く）、上郷小学校コミュニティハウスで18時15分から2時間。演奏会実績は04年4月、リリースでの自主演奏会を含み、01年3月の矢沢小学校での「ふれあい音楽会」デビュー以来、25回あります。

団員の平均年齢は68歳ですが、声を出すのが好きで合唱が楽しく、自分たちのハーモニーに酔いしれる皆さんが集います。練習は発声練習をみっちりやった後、常任指揮者の湊晋吾さんとピアノ伴奏の山本典子さんの指導の下、熱気あふ



熱気あふれる練習

れるもので、力強いハーモニーは聴く者の心を揺さぶるものでした。団長の平井明さんを中心に、より良いハーモニーを目指し、日々研鑽に努めています。

入会の動機として、合唱の経験はないけれど、「合唱団の演奏に魅せられてやってみたい」が最も多く、入ってしまうと、①腹の底から声を出しスッキリ、②良い指導者と良き仲間恵まれ、③健康に良い、④老化防止になる、⑤明るく楽しい雰囲気などで、合唱のとりこになってしまうようです。

今後は、福祉施設などでの回数を増やすなど、より演奏活動を充実させていきます。会員は常時募集。会の内容はホームページ (<http://yadan.mikosi.com/>) をご覧下さい。

子どもたちの元気な声を聞きたい

<青少年指導員>

自治会で推薦された市民が、青少年の健全な育成を目指し、青少年指導員として活動しています。栄区には現在約100人の指導員がいて、ミニリンピック、親子でフィッシング、キャンプ、ヤングフェスティバルなどのイベントで、子どもたちの活動をサポートしています。その他、防犯パトロール、有害図書調査なども行っているそうです。青少年指導員として長年活動している山田作太郎さんと橋本哲芳さんにお話を聞きました。

●山田作太郎さん（桂台北在住）／教職についているので、青少年の教育には関心がありました。思うように時間が取れないこともありますが、19年間指導員を続けられたのは無理をせず、できることを続けてきた結果でしょう。最近問題になっているいじめは昔からあったと思いますが、その中身が



本郷中央地区青少年指導員のメンバー
橋本さん（後列中央）と山田さん（後列向かって右）

陰湿になっていると思います。子どもを取り巻く環境も一向に改善されていません。学校と行政と地域が一つになり、子どもたちを支えていく組織作りができたらと思っています。

●橋本哲芳さん（朝日平和台在住）／指導員になって7年目です。指導員と補導員の区別もわからなくて、最初は断ったんです。今は色々な子どもと出会えるので、楽しくやっています。こういったボランティア活動は自分も楽しむことが長続きをする秘訣かな。山登りが趣味なので、子どもたちに自然と親しむことを伝えたい。3年ほど前から地域の公園で、中学生の居場所をつくろうと奮闘中です。

Q.5 定年後、地域活動や福祉活動をしてみたいと思いますか？

- 1 はい 6人 ●●●●●●
- 2 いいえ 12人 ●●●●●●●●●●●●
- 3 その他 3人 ●●●
- (・仕事とのバランスを考える・趣味を楽しみたい・不明)
- 4 無回答 1人 ●

Q.6 「はい」と答えた方にお聞きします。

どんな活動に参加してみたいと思いますか？

- ・青少年の健全育成のための組織作り
- ・ハンディキャップを負っている子どもたちの活動を支援することに取り組みたい
- ・自然保護活動
- ・自分の能力が提供出来る分野
- ・子どもの育成と安全を守る
- ・車を使ったお手伝い
- ・ボランティア活動

Q.7 「いいえ」と答えた方は、なぜですか？

- 1 きっかけがわからない 3人 ●●●
- 2 どんなグループがあるかわからない 0人
- 3 興味があまりない 8人 ●●●●●●●●
- 4 その他（・生活に余裕が出来たら考える） 1人 ●

アンケートを終えて

定年後は何をしたいですか？の問いに、家でのもんびりしたい、趣味活動を充実させたいという答が多かった。定年後は好きなことをしてのもんびりしたいと考えていて、しかも自己啓発に目を向けている。社会に役立ちたいという気持ちはあまりないようだ。このことは、働きながら地域活動・福祉活動に参加している方が少ないことでもわかる。今後我々としても、この年代の活力ある世代に地域活動・福祉活動に興味を持ってもらい、様々な活動を紹介し、より一層の地域活動の活発化を目指して協力していきたいと思う。

本郷中央地区支えあい連絡会全体会報告 (2月23日 桂台地域ケアプラザ)

◆区政20周年記念事業「わが町の福祉増進のための話し合い広場」の開催に至るまでの経過と、当日は予想を超えて盛況であったと報告された。パネラーとして参加した自治会長から①要援護者を見守る活動、②地域での子育て支援活動等、発言内容の概略について報告があった。湘南桂台自治会の取組みについて発言した梅津会長には、終了後に数多くの問合せがあり、反響の大きさを実感したとのこと。

◆各分科会報告

<ボランティアグループ分科会> ・20団体が参加している分科会だが、共通課題として「ボランティア側の高齢化」があり、地域で共に活動してくれる仲間を見つけるため「ボランティア体験講座」を1月～3月にかけ開催している。

<子育て分科会> ・「親子講座」や「おもちゃ文庫『ポコ』(子育てサロン)」への支援、また地域に住む子どもの交流及び福祉への理解を経験的に学ぶ機会の提供等を目的に「フ

リースクウェア」や「中学生ボランティア講座」を開催している。

<地域づくりの会> ・地域に住む人たちが世代を超えた交流を図れることを目的としたイベントを企画・実施している。

<広報分科会> ・「特集テーマ」団塊の世代に焦点を当てた広報誌「ひろば」の発行、ホームページ作成による情報提供を行っている。

<地域福祉関係者分科会> ・「わが町の福祉増進のための話し合い広場」の開催の他、「協働講座」を3回開催した。

◆関係機関からの報告

区役所より⇒地域活動に対する助成金を19年度より一元化する予定。

桂台地域ケアプラザより⇒連絡会は来年度も2回開催予定、詳細は後日改めて連絡をする。

上郷西地区支えあいネットワーク連絡会全体会報告

(3月7日 桂台地域ケアプラザ)

◆今年度の取り組みについて

子供から大人までが参加できるよう工夫して参加人員を増やすことやネットワークハンドブックの作成について報告され、ハンドブックの内容について説明があった。

★ハンドブックは、上郷西地区支えあいネットワーク連絡会事務局(桂台地域ケアプラザ)で入手可能。

◆各分科会報告

<地域づくりの会> おもしろ科学探検隊でのアイスクリーム作りやわくわくスポーツ交流会を実施、3/25に「春のほのぼの交流会」を予定している。

<広報分科会> ひろば15号で、前号に引き続き団塊世代の地域参加について特集記事を掲載予定。ホームページでは、取材記事を掲載する一方、各分科会活動関連情報の掲載をいつでも受け付けている。

<子育て分科会> 親子講座、中学生ボランティア講座を開催、子育てサロン、おもちゃ文庫など子育て支援を展開。

<ボランティアグループ分科会> 20グループで構成し、6回のボランティアフォローアップ研修会を実施した他、ボランティア体験講座を企画開催した。

<地域福祉関係者分科会>

支えあいネットワークをより理解して頂くために『上郷西地区支えあいネットワークハンドブック』を作成した。

◆地域の取り組み

地域のネットワーク作りについて、尾月自治会の現状が報告された。30数年前から現在までの尾月住民の暮らし振りの変遷が披露され、その暮らしの中から実施に移されたいろいろな活動(防犯パトロール、子育てサロンなど)を展開しているが、「何気ない隣人同士の日常のふれあいがいざという時の助け合いにつながる」のではないかと結んだ。

◆桂台地域ケアプラザ包括支援センター活動報告

地域包括支援センターの役割や当該地区の状況に即した1年間の取り組みが報告された。

◆関係機関からの報告

区役所から「この地区のネットワーク事業の進み具合はたいしたもの、地区の皆さんの協力のたまもの」とのコメントがあった。(写真:3月7日、話し合いの様子)



編集後記

●活動中の皆さんに年を感じません。「自らの意思で好きなことに熱中することが元気の秘訣」と取材を通して改めて納得した。(U)

●地域の和は、人の善意に支えられているんだなと実感。(S)

●新米でまだ経験が浅いのですが、取材を通して色々なボランティア活動で地域が支えられていることを実感しました。(S)

●平成の世になり、すでに19年。戦後のニッポンを懸命に生き抜いてきた昭和の少年・少女が大量に定年退職を迎える時期が到来しました。人生のゴールを見据え、自分にとって「幸せのかたち」を一人ひとりが見つけ直すときなのでは。(I)

●今号より表紙ロゴをリメイク、軽やかにスタートです。(K)